

令和3年度独立行政法人国立美術館年度計画

I 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開

(1) 多様な鑑賞機会の提供

①-1 独立行政法人国立美術館（以下「国立美術館」という。）は、研究成果、利用者のニーズを踏まえ、各館の特色を生かした所蔵作品展を小企画展・テーマ展として行うものを含め開催する。企画展では、メディアアート等の先端的な展覧会やアジアに目を向けた展覧会、作家・作品の再発見・再評価、海外の美術館との連携協力により世界の美術の紹介を目指した展覧会を開催する。

映画については、保存・復元成果の活用と、国内外の同種機関や関連団体との積極的な連携を通して、映画人や時代、国やジャンル等様々な切り口による上映会・展覧会をバランスよく実施し、多様な鑑賞機会の提供を図る。

また、入館者アンケート調査及び「非来館者調査」等を実施し、そのニーズや満足度を把握し、分析結果を展覧会事業等に反映させる。

その他各館のホームページをはじめ、インターネットを活用した展覧会事業等の広報により一層努める。

各館では以下の方針に基づき、別表1の展覧会等を開催する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

所蔵作品展では、特集展示による新たな視点の提供や、多言語による掲出解説文の充実に努め、約100年にわたる日本美術の流れを体系的に示す国内最大の展示としての使命を十全に果たす。主な特集展示として、「美術館の春まつり」、「鉄とたたかう 鉄とあそぶ デイヴィッド・スミス《サークルIV》を中心に」「ピエール・ボナールと日本近現代美術（仮称）」等を開催する。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「オリンピック・パラリンピック」という）の時期には、重要文化財を中心とした名品を集中的に展示し、国際化の中でアイデンティティを模索する日本の近代美術の歩みをわかりやすく紹介する。

企画展では、幕末から昭和期の退廃的・官能的・グロテスクな絵画表現に焦点を当て、そこに潜む物語を読み解いていく「あやしい絵展」、オリンピック・パラリンピック開催にちなみ、新国立競技場の設計を担当した建築家の多様な仕事に「公共性」の創出という観点から迫る「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの5原則」、近年注目を集めている「民藝」を、生活や社会を変革する芸術・文化運動として多面的に捉え直す「柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年」、最新の研究成果を踏まえて、近代日本の生活を活写した画業の全貌を示す「没後50年 鏑木清方展（仮称）」を開催する。

〈工芸館〉

石川・金沢に移転して1周年を迎える年度となることから、所蔵作品展において工芸館の特色を打ち出した展示を開催する。第1弾として、竹橋時代に培ったノウハウをもとに、オリンピック・パラリンピックが開催される夏季において子ども向けの展覧会「たんけん！こども工芸かん（仮称）」を開催し、わかりやすく工芸を紹介するとともに、海外からの来館者にも日本の工芸文化の素晴らしさを伝えるものとする。また、冬季にはデザインコレクションを主にした展覧会を開催し、工芸館のコレクションの幅広さと奥深さを紹介する。

企画展では、国立工芸館石川移転開館記念展の第3弾として、「近代工芸と茶の湯のうつわー四季のしつらいー」を開催する。さまざまな素材や技法を駆使したつくり手の想いを伝える「表現の“うつわ”」と、使い手からの「見立ての“うつわ”」を四季の取り合わせの中で紹介し、時代によって移りゆく茶の湯のうつわの楽しみ方を考察する。また、移転開館1周年にあたる秋季には、重要文化財である《十二の鷹》をメインに、近年収集に力を入れてきた明治工芸を一堂に会した「鈴木長吉《十二の鷹》と明治工芸（仮称）」を開催する。あわせて、石川出身の蒔絵の人間国宝・松田権六の工房を移築し、作家ゆかりの制作道具や関連資料などを展示した「松田権六の仕事場」に絡んだ内容の特集展示も行う。

（京都国立近代美術館）

所蔵作品展では、各ジャンルとも企画展と連動したテーマを積極的に採用しつつ、年間5回の総展示替によって幅広いコレクションを紹介する。また、「キュレトリアル・スタディーズ」と題した外部研究者・機関との共同研究調査に基づく展示も行い、令和3年度は前衛陶芸家八木一夫による写真作品を採り上げる。

企画展では、ヴィデオ・インスタレーションのパイオニアで、スイスを拠点に国際的に活躍する現代アーティスト、ピピロッティ・リストの回顧展「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island ―あなたの眼はわたしの島―」を開催する。続いて、2023年の開館60周年を見据えて、「モダンクラフトクロニクル」と題した、近代工芸の展開をコレクションによって紹介する展覧会を開催し、併せて約3,000点にのぼる京都国立近代美術館工芸コレクションの所蔵作品目録を刊行する。また、各研究員の調査・研究に基づく成果として、幕末明治に日本を訪れた外国人画家そしてその影響を受けた日本人画家が、当時の日本の風景や風俗を描いた作品による展覧会「発見された日本の風景 外から見る／外へ見せる」、文化芸術が爛熟した世紀末ウィーンに生まれ育ち、のちに京都に移り住んで、両方の街でデザイン制作と教育に大きな足跡を残した上野リチ・リックスの回顧展「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」、幕末から明治にかけて京都と大阪において盛んであった文化サロンを通じて生み出された絵画や版本の世界を紹介する展覧会「京・大阪画壇の文化サロン（仮称）」を開催する。そのほか、令和2年度に収蔵した、《舞妓図（舞妓里代之像）》を含む42点の岸田劉生作品群を一挙公開する展覧会を開催し、国立美術館の収集活動の一端を紹介する。

（国立映画アーカイブ）

上映会では、令和2年度に引き続き 1980 年代の日本映画を回顧する上映企画「1980

年代日本映画——試行と新生」を開催する。また、日本で外国の古典映画を上映する機会が減少している現状をふまえた企画として「NFAJ 所蔵外国映画選集 2021」、新型コロナウイルス感染症の影響により定員数を縮小して実施した令和2年度の上映企画の中から、特に人気のあった作品を中心に再上映を行う「追加上映：松竹第一主義、三船敏郎、原節子」、近年逝去された映画人の方々を代表作の上映を通して追悼する「逝ける映画人を偲んで 2019-2020」、弁士の説明や生演奏を付けて無声映画を上映する企画「サイレントシネマ・デイズ 2021」、2021年に没後40年を迎える名匠・五所平之助監督の足跡をたどる「没後40年 映画監督 五所平之助」、香港電影資料館所蔵作品を中心に香港映画を回顧する「香港映画の全貌（仮称）」、1980年代特集に続き現代日本映画の源流を探る「1990年代日本映画特集（仮称）」を開催する。

小ホールでは、新たな上映企画として、様々な作品を臨機応変にプログラミングする「レパートリー上映 2021 春（仮称）」、「レパートリー上映 2021 秋（仮称）」及び「レパートリー上映 2022 冬（仮称）」を開催する。

共催企画上映では、「EU フィルムデーズ 2021」や「第43回ぴあフィルムフェスティバル」のほか、シネマテーク・フランセーズとの共催（予定）で「フランス映画特集（仮称）」を上映する。

展覧会では、スチル写真・ポスター・プレス資料等の所蔵コレクションを活用しつつ、特集展示「NFAJ コレクションでみる 日本映画の歴史」を実施するとともに、企画展として「創刊75周年記念 SCREEN を飾ったハリウッド・スターたち」、日本の特撮映画のパイオニアに焦点を当てる「生誕120年 円谷英二展（仮称）」、現代アメリカの映画ポスター芸術に着目した「MONDO 映画ポスターの最前線（仮称）」を開催する。

（国立西洋美術館）

令和3年度は全館休館となるため、所蔵作品展及び企画展の開催はなし。

（国立国際美術館）

所蔵作品展では、企画展に合わせ2期に分けて展示を開催する。1期では、修復を終えた田中信太郎の作品とともに、60～70年代の作品を取り上げ、2期では修復したO JUNの作品を中心に紹介する。また、通期にわたって国立国際美術館が所蔵する名品を中心とした展示を実施する。

企画展では、1960年代半ばからニューヨークを拠点に活動した新潟出身のビデオ・アーティスト、久保田成子の日本初となる回顧展「Viva! Video 久保田成子展」、作品集『IN MY ROOM』で木村伊兵衛写真賞を受賞した鷹野隆大の日課としてきたスナップ写真や東日本大震災以降の新シリーズ等を含む全仕事のなかから、1999年以降の作品を紹介する「鷹野隆大 毎日写真1999-2021」、20世紀ドイツ美術を代表するヨーゼフ・ボイスとその弟子パレルモ、二人の造形理念を公開する「ボイス+パレルモ」、そして今村源、中原浩大、名和晃平といった日本を代表する現代作家たちが美術館の展示室をラボラトリーとして捉えるような実験的な試みを実施する「感覚の交差展」を開催する。

（国立新美術館）

令和2年度から引き続き開催する「佐藤可士和展」では、日本を代表するクリエイティ

ブディレクター佐藤可士和の約 30 年にわたる活動を多角的に紹介する。「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」では、戦後から現在に至るまでの日本のファッションを、歴史的、社会史的に検証する意欲的な企画である。ニース市マティス美術館の所蔵作品を中心とした「マティス 自由なフォルム」展では、大作《花と果実》を修復後に日本初公開するなど、マティス独特の「切り紙絵」とその関連作品に焦点を当てる。

「アニメ・特撮文化と日本の自然観（仮称）」展は、アニメと特撮作品の影響関係を紹介する展覧会である。「オルセー美術館展（仮称）」では、19 世紀におけるパリの大規模な都市改造と生活スタイルの変容を背景に、美術の流れを検証する企画である。また、「メトロポリタン美術館展（仮称）」では、ルネサンスから 19 世紀まで、同館の西洋美術を代表する名品が一堂に会する。

- ①-2 国立美術館における企画機能の強化を図るため、所蔵作品の相互貸出の推進に努めるとともに、6 館共同企画展の成果を踏まえ、今後の各館連携について検討する。

- ①-3 国立西洋美術館においては世界文化遺産を構成する前庭について、これまで国立西洋美術館活用・公開方針検討委員会で検討してきた「国立西洋美術館前庭の活用・公開の方針とこれに伴う前庭の整備方針」に基づき、防水更新工事に併せて創建時の設計意図を明示するための復原を行う。また、同委員会で「活用」と「公開」について、引き続き検討する。

- ② 国立美術館の所蔵作品を効果的に活用し、地方における鑑賞機会の充実及び美術の普及を図るため、全国の公私立美術館等と連携して、国立美術館巡回展を以下のとおり実施する。

「令和 3 年度国立美術館巡回展 国立西洋美術館コレクションによる「山形で考える西洋美術」高岡で考える西洋美術――〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」

（担当館：国立西洋美術館）

（ア）期間：令和 3 年 7 月 17 日（土）～8 月 27 日（金）（37 日間）

会場：山形美術館（山形県山形市）

（イ）期間：令和 3 年 9 月 10 日（金）～10 月 24 日（日）（39 日間）

会場：高岡市美術館（富山県高岡市）

- ③ 公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる映画鑑賞事業を実施する。

ア 優秀映画鑑賞推進事業

広く国民に優れた映画鑑賞の機会を提供し、あわせて国民の映画文化や映画芸術への関心を高め、映画フィルム保存の重要性についての理解を促進するため、文化庁の協力のもと、教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による共催事業として、全国各地で映画の巡回上映を実施する。

プログラム：25 プログラム 100 作品（1 プログラム 4 作品）

日本映画史を彩る名匠たちの代表作やスターが活躍するヒット作、時代劇、青春映画等、それぞれのジャンルを代表する名作、時代を画した話題作等で構成し、同時に、地域の特色を持った構成により、会場が参加しやすいよう工夫をする。

期間：令和3年7月20日（火）～令和4年3月6日（日）

会場：全国100会場（予定）

イ 巡回上映等

（ア）「東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」（年4回予定）

期間：令和3年10月、11月、令和4年1月、3月（予定）

会場・共催：東京国際フォーラム（東京都千代田区）

（イ）「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」

期間：令和3年4月～令和4年3月

会場：地方会場複数（予定）

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

（ウ）「香港映画の全貌（仮称）」

期間：令和4年2月（予定）

会場・共催：福岡市総合図書館

（エ）「NFAJ 所蔵作品選集 MoMAK Films」（年4回）

期間：令和3年5月、8月、11月、令和4年2月（予定）

会場・共催：京都国立近代美術館

（オ）「中之島映像劇場—国立映画アーカイブ所蔵作品による」

期間：令和3年度中（予定）

会場・共催：国立国際美術館

（2）美術創造活動の活性化の推進

国立新美術館は、美術団体等に公募展会場の提供等を行う。

ア 令和3年度に公募展等を開催する美術団体等に会場を提供する。

イ 令和5年度に施設を使用する美術団体等を決定する。

ウ 美術団体等が快適に施設を使用できる環境の充実を図るとともに、美術団体等と連携して教育普及事業を行う。

（3）美術に関する情報の拠点としての機能向上

① 法人のホームページ及び各館のホームページについては、内容の充実を図り、国立美術館の活動について積極的な情報発信に努める。

所蔵作品情報については、平成28年度年度に実施した平成18年度以降の新収蔵作品の著作権者の調査等に基づき、許諾を得たものについて国立美術館所蔵作品総合目録検索システムに掲載し、収録画像の増加に努めるとともに、新収蔵作品等について著作権者の調査を継続する。加えて、専門家のための情報発信として、歴史情報（来歴等）を含む所蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家向けにも利用可能なレベルの情報をインターネットを通じて公開し、国内外の研究促進に貢献する。

また、国立国会図書館サーチ（NDL Search）、文化庁文化遺産オンライン及びジャパンサーチとの連携を継続する。

このほか、国立美術館の事業成果を取りまとめた『国立美術館年報』を発行する。

(アート・コミュニケーション推進センター(仮称))

ア 所蔵作品のデジタル化・データベース化を主導して進めるとともに、新たな美術館
関心層に向けたデジタル技術を用いた情報活用の設計を進める。

イ 令和2年度まで開発を進めてきた国立美術館の公開情報資源(国立美術館所蔵作品総
合目録検索システム、国立美術館各館の図書検索システム、国立西洋美術館所蔵作品
データベース及び国立美術館アートコモンズ等)を一元的に検索・閲覧できるシステ
ムの公開を進める。

(東京国立近代美術館)

ア 所蔵作品や展覧会、講演会、教育普及事業等の情報を適時ホームページに掲載し、情
報の充実を図る。また、Youtubeを含む複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。

イ 館ニュース「現代の眼」を電子ジャーナルとしてホームページ上で公開する。

ウ 研究紀要26号(令和3年度刊行予定)の全文をホームページで公開する。

エ 「東京国立近代美術館リポジトリ」を通して、ホームページ上で刊行物等を広く公開
する。

(京都国立近代美術館)

ア 利用者のニーズの多様化に対応し、スマートフォンの普及など、端末の環境変化に
あった情報提供に努める。

イ 展覧会情報、講演会、教育普及などのイベント情報をホームページに掲載し、情報の
充実を図る。また、フェイスブックに加え、令和元年度に新たに開設したインスタグラ
ムを活用し、積極的に情報を発信するとともに、ホームページへのアクセスや美術館
への来館を促進する。

ウ コレクション・ギャラリーのテーマ展示に関する解説を多言語でホームページに掲
載し、情報発信の充実を図る。

エ 過去の展覧会情報をアーカイブ化して、ホームページ上で公開する。

(国立映画アーカイブ)

ア 定期刊行物及び上映作品に関する広報物の内容を充実させるとともに、ホームペー
ジ、メールマガジン、ツイッター、フェイスブック、Instagram及び公式youtube
チャンネルを活用し、積極的に情報発信を行う。

イ 所蔵する記録映画・ニュース映画等の貴重な映像資源をオンラインでの視聴に供す
るための「国立映画アーカイブ・コレクションによる歴史的映像デジタルアーカイブ
(仮称)」の構築を開始する。

ウ ホームページ上の「NFAJデジタル展示室」の充実や、所蔵技術資料のデジタル化に
取り組む。

エ ホームページ開設前の過去の上映会、展覧会に関する企画情報及び広報物をホーム
ページ上に集積し、情報発信の充実を図る。

オ ホームページ上に映画製作専門家養成講座やアーカイブセミナーなど過去に開催し
た教育普及事業の採録テキストを公開し、オンラインサービスで学べるコンテンツの

充実化を図る。

(国立西洋美術館)

- ア 来歴等を含む収蔵作品情報の収集・整理に努め、専門家のニーズにも適う本格的な作品情報を2か国語（日本語、英語）で公開し、国内外の研究進展に貢献する。
- イ 「国立西洋美術館出版物リポジトリ」を通じて『国立西洋美術館研究紀要』及び『国立西洋美術館報』最新号等を公開し、美術に関する研究成果等についてオープンアクセス化を推進する。
- ウ 広報の情報発信として、当館事業その他の活動状況を4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）のホームページやSNSを通じて積極的に発信するとともに、PCやスマートフォンなどデバイスに左右されない画面デザインへの更新に向けて準備を進める。
- エ 所蔵作品に関する情報資産の安全な運用のため、所蔵作品データのバックアップ・コピーの作成及び遠隔地での保管を実施する。

(国立国際美術館)

- ア レジストラの管理の下、所蔵作品管理システムを活用して作品情報の効率的管理を行う。
- イ 特にパフォーマンス等の現代美術作品のデータを適切に管理し、積極的に貸出などの活用をする。また、その調査研究や活用について先駆的な事例を蓄積し、国内外への情報発信を目指す。
- ウ 歴史情報（来歴、展歴等）を含む所蔵作品の情報整備に努め、インターネットを通じて2か国語（日本語、英語）で公開する。
- エ 所蔵作品、展覧会情報、講演会、教育普及事業等のイベント情報をホームページに掲載し、情報の充実を図る。さらに複数のSNSを活用し、積極的に情報を発信する。
- オ ホームページについて、現在の展覧会情報だけでなく、過去の展覧会情報についても充実を図る。
- カ 4か国語（日本語、英語、中国語、韓国語）の展覧会情報等をホームページ上で公開する。

(国立新美術館)

- ア SNS等を活用し、館の活動を積極的に発信するとともに、ホームページへの利用者の誘導を行う。スマートフォン等でも使いやすいホームページを整備し、利用者の利便性の向上を目指す。
- イ 脆弱な所蔵資料を対象としたデジタル化を実施する。さらに、これまで閲覧に供することが難しかった脆弱な所蔵資料をデジタル化資料として提供する閲覧サービスを試験的に運用し、脆弱な所蔵資料の保存と利用者の閲覧の利便性向上の両立を図る。

- ② 美術史その他関連諸学に関する資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、各館の情報コーナー、アトライブラリー、資料閲覧室等において、情報サービスの提供を実施する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

本館アトライブラリにおいて近・現代美術関連資料を収集し、公開する活動を継続的に進める。

〈工芸館〉

工芸館アトライブラリにおいて近・現代工芸及び美術関連資料を収集し、公開する活動を進める。

(京都国立近代美術館)

情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続的に進める。

(国立映画アーカイブ)

ア 映画関連の図書資料を、購入や寄贈などを通じて積極的かつ継続的に収集し公開する。

イ 戦前期の映画雑誌など図書資料のデジタル閲覧システムの充実を図る。

(国立西洋美術館)

ア 西洋美術に関する情報及び資料を収集し、調査研究活動の基盤とする。電子リソースも積極的に取り入れてリモートアクセスへの対応を進め、研究資料センターを通じて外部利用者への利用にも供する。

イ 美術に関する情報拠点としての機能を強化するとともに国際的な美術情報流通の向上に寄与するため、美術図書館連絡会（ALC）や「アート・ディスカバリー・グループ・カタログ」への参加等、国内外の美術図書館と連携する。

ウ 松方コレクション及び林忠正資料を中心に研究資源の整備・公開を引き続き進める。

(国立国際美術館)

現代美術に関する資料や情報を積極的に収集し、調査研究活動の基盤とする。また、情報資料室において所蔵する図書及び美術資料の外部研究者等への公開を継続して実施する。

(国立新美術館)

ア 国内美術展カタログの海外への寄贈事業（Japan Art Catalogプロジェクト）の質的な充実を図るとともに、国内有数の所蔵数を誇る展覧会カタログのコレクションの更なる充実に努め、日本の現代美術に関する資料のアーカイブ構築・公開を進める。

イ 「アートコモンズ」の収録展覧会情報のより一層の充実を図り、展覧会情報と同館が有する美術情報との連携を進める。また、「アートコモンズ」の収録展覧会情報を広く活用するために文化情報等を横断的に検索できる、国立国会図書館が実施する「ジャパンサーチ」への連携を継続的に実施する。

(4) 教育普及活動の充実

- ① 年齢や理解の程度に応じたきめ細かい多様な事業を展開するとともに、美術教育に携わる教員等に対する美術館を活用した鑑賞教育に関する研修や、学校で活用できる教材「アートカード」の貸出と普及に努め、美術の一層の普及を図る。また、学校や社会教育施設に対して、これら事業の広報に努める。なお、令和3年度は新型コロナウイルス感染症の状況に対応しつつ、感染防止策に配慮した教育普及活動を実施する。

(アート・コミュニケーション推進センター (仮称))

新たなオンラインプログラム等のラーニングコンテンツの開発に着手する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

展示室や講堂での活動ができない場合でも、オンラインを利用したプログラムを開発・実施することにより、これまで以上に幅広い層に対応した教育普及活動を展開する。具体的には、zoom (オンライン会議システム) を利用して、所蔵作品の高精細画像を共有し、本館ガイドスタッフ (解説ボランティア) が対話鑑賞を進める「オンライン所蔵品ガイド」の開催や、「キュレータートーク」、「ガイドスタッフによるイチオシ作品」等のYouTube配信などである。また、小・中学校、高等学校へは、所蔵作品による授業用ウェブサイト「鑑賞素材BOX」とzoomを併用することにより、遠隔地の学校や、特別な支援を必要とする児童生徒への、発達段階に応じた鑑賞教育を持続させる。

外国人来館者向けの英語による鑑賞・異文化交流プログラム「Let's Talk Art」は、新型コロナウイルス感染症による渡航制限緩和の状況に応じて再開する。ビジネスパーソン向けには、ひきつづき鑑賞ワークショップ等のプログラムを提供する。

ア 企画展に関する講演会やギャラリートークの実施 (YouTube等による動画配信を含む)

イ 所蔵作品展に関するキュレーター・トークやガイドスタッフによる作品紹介の実施 (YouTube等による動画配信を含む)

ウ ガイドスタッフによる対話鑑賞プログラム「所蔵品ガイド」の実施 (zoomを利用した「オンライン所蔵品ガイド」を含む)

エ 外国人来館者向けの英語鑑賞プログラム「Let's Talk Art」を担う英語ファシリテータのスキル維持

オ ビジネスパーソン向け鑑賞プログラム等の実施

カ 各種学校と、児童・生徒・学生へのスクール・プログラム (zoom等による遠隔授業を含む) や、「先生のための鑑賞日」「先生のための美術館活用研修」(オンライン対応含む) の実施

キ 小・中学生向けの「セルフガイド」、親子向けの「セルフガイド・プチ」及び「英語版セルフガイド・プチ」の会場配布と、「デジタル版セルフガイド」の電子配信

〈工芸館〉

ア 展覧会ごとに講演会やアーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施又はオンラインコンテンツの配信

- イ 一般観覧者向けの「鑑賞カード」等鑑賞補助教材の配布又は配信
- ウ 児童を対象とするオンラインセルフガイド等の配信
- エ 2D及び3D鑑賞鑑賞システムの構築と公開
- オ 近隣の美術大学との連携による工芸制作における言語活動の推進プログラムの試行

(京都国立近代美術館)

幅広い層の人々への美術鑑賞・美術館での体験に対する関心を高めることを重点目標に置き、展覧会に関連した講演会や解説を開催する。また、美術館を活用した各種団体の自発的な学習・研究等を積極的に支援するとともに、美術鑑賞教育の核としての現場指導者の質の向上を目指す。さらに、障害者や若年層、家族連れをはじめとする利用者層にもアプローチしながら、美術館での体験の枠組みを広げる取組を進める。

- ア 小・中・高等学校、特別支援学校及び大学の授業や課外活動との積極的な連携
- イ 教員の美術館利用プログラムに対する支援
- ウ 学校、各種団体からの要請による解説の実施
- エ 企画展に関連した講演会やシンポジウム、ギャラリートークの実施
- オ 京都市教育委員会等との共催による小・中学校教員を対象とした授業実践力向上講座の開催（InstagramやYouTube等での動画配信を含む。）
- カ 誰もが美術館や美術作品を楽しめるユニバーサルなプログラムの継続的な実施

(国立映画アーカイブ)

映画及び映画保存に関して、幅広い層に合わせたレベルと内容の教育普及プログラムを実施する。

- ア 相模原市及び独立行政法人宇宙航空研究開発機構との文化事業等協力協定に基づく上映会及び施設見学並びに相模原市内の小・中学生を対象とした上映会等の実施
- イ 駐日ハンガリー大使館文化部ハンガリー文化センター東京等との共催でヴィシエグラード・グループ各国の多様なアニメーションなど短篇作品の鑑賞機会を各国文化センターの解説付きで提供する「V4 中央ヨーロッパ子ども映画祭」の実施
- ウ 一般社団法人コミュニティシネマセンターとの共催による巡回上映事業「こども映画館 スクリーンで見る日本アニメーション！（仮称）」の実施と事業内でのワークショップの推進〔再掲〕
- エ 東京国際フォーラムとの共催で専門家の解説付きで文化記録映画を上映する館外共催教育事業「東京国際フォーラム＋国立映画アーカイブ 月曜シネサロン&トーク」の実施〔再掲〕
- オ 教育委員会、公共文化施設等との連携・協力による巡回上映事業「優秀映画鑑賞推進事業」を実施し、現在では希少な35mmフィルム上映とスクリーンでの鑑賞体験を通して映画保存や映画文化についての普及を実施〔再掲〕
- カ 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施
- キ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施

(国立西洋美術館)

より多くの人に美術・美術館に親しんでもらう機会を創出し、各対象に応じた学びを

提供することを目的に、プログラムを実施する。休館中である令和3年度については、出張授業やオンラインでの実践を行うと共に、令和4年度の再オープンに向けてこれまで実施してきた各プログラムを見直し、改善を図るなど、社会的包摂を目指す活動を展開する。

ア 学校団体（特別支援学校も含む）への出張授業（依頼に応じて）

イ 「スクール・ギャラリートーク」、職場訪問、オリエンテーション（小・中・高等学校の団体対象）の再開に向けた、HP及びリーフレットでの情報提供の拡充

ウ 遠隔地からの参加も視野に入れたファミリープログラム等のオンライン実施

エ 建築関連オンラインレクチャーの実施

オ ファミリー・プログラム「どうぶじゅつ」の申込システムの改変（オンライン申込システムの構築及びプログラム参加・申込に至らない家庭へのアプローチの検討）

（国立国際美術館）

より多くの方がアクセス可能な美術館を目指し、0歳児も含めた就学前の乳幼児が保護者とともに美術館体験を育むことのできるプログラムの充実及び障害者対象プログラムを実施する。

また、所蔵作品展、企画展に合わせて、幅広い層の人々が美術館に親しみ、美術鑑賞の機会を身近に感じ、それぞれの人に応じた学びを得られるプログラムを実施する。そのほか、各校種・研究団体と連携することにより、幼保・小・中・高等学校・特別支援学校とのより一層の結びつきを深め、鑑賞教育の充実を促進する。

ア 企画展に関連した講演会・対談・アーティスト・トーク、ギャラリートーク等の実施

イ 所蔵作品展に関連したギャラリートークの実施

ウ 小・中学生向け作品鑑賞プログラム「こどもびじゅつあー」の実施

エ 未就学児とその家族向けプログラム「ちっちゃなこどもびじゅつあー ～絵本もいっしょに～」の実施

オ ファミリー・プログラム「びじゅつあーすぺしゃる」の実施

カ 子供から大人までを対象にした現代美術作家等によるワークショップの実施

キ 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」の配布

ク 鑑賞補助教材「アクティヴィティ・ブック」の作成

ケ 教職員向け美術館活用促進印刷物「スクール・プログラムガイド」の配布

コ 幼保・小・中・高等学校・特別支援学校や大学からの要請に応じた、児童・生徒・学生へのオリエンテーション及びギャラリートークの実施

サ 教職員向け美術館活用プログラム「ティーチャーズ・デイ（仮称）」（幼保・小・中・高等学校・特別支援学校の教職員対象）の実施

シ 美術館活用及び鑑賞教育に関する教員研修の実施

ス 大阪市教育センター、大阪府教育センター等との連携による研修会の実施

セ 誰もがアクセスできるユニバーサルプログラムの実施

（国立新美術館）

来館者の作品鑑賞の充実を目的として、展覧会ごとに講演会やアーティスト・トークを実施するほか、より多くの人々に美術に親しむ機会を提供するためのプログラムを幅広く

い層を対象に実施する。

ア 展覧会にあわせた講演会及びアーティスト・トーク、ギャラリートーク等を実施するとともに、新型コロナ感染症拡大防止の観点から、イベントのオンライン実施に努める。

イ 子供から大人まで幅広い層を対象にした作家等によるワークショップ等の実施

ウ 美術団体等との連携による講演会、鑑賞会及びギャラリートーク等の実施

エ 鑑賞ガイドの作成及び配布

オ 児童、生徒、学生を対象とした鑑賞ガイダンスの実施

カ 美術館の建築とその機能・特徴に親しむ建築ツアーの開催

キ 来場者がいつでも美術館の建築について親しみ、美術館の機能について知ることができる、国立新美術館建築ガイドアプリ「CONIC」の配信（日本語・英語・中国語・韓国語の四か国語対応）と活用。

ク 美術館近接地である港区及び渋谷区、千代田区の地域貢献活動として、休館日学校招待デー「かようびじゅつかん」の開催

ケ アニメーション表現による映像作品を紹介する機会として「TOKYO ANIMA!2021」を開催するとともに、「インターカレッジ・アニメーション・フェスティバル (ICAF) 2021」に特別協力する。また、日本アニメーション協会と連携してワークショップ等を開催する。そのほか、マンガ、アニメーション、ゲームに関連した事業の企画や協力を行う。

② ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。

（アート・コミュニケーション推進センター（仮称））

企業や大学等と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けたラーニングコンテンツを検討する。

（東京国立近代美術館）

〈本館〉

ア ガイドスタッフ（解説ボランティア）による、所蔵作品展の所蔵品ガイドや、zoomを利用したオンライン対話鑑賞を実施する。

イ ガイドスタッフによる、所蔵作品の紹介動画をYouTube配信する。

ウ ガイドスタッフによる、小・中学生の受入れ（スクール・プログラム）等、鑑賞教育の充実を図る。

エ 本館ガイドスタッフ7期を募集し、養成研修を行う。

オ 「Let's Talk Art」のための英語ファシリテーターのフォローアップ研修を継続的に行う。

カ 有償ガイドスタッフによるビジネスパーソン向けプログラム等、有料プログラムを実施する。

キ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

〈工芸館〉

- ア 臨時ボランティアを採用し、オンラインによる日本語及び英語ガイドを実施する。
- イ ボランティアを活用したサービスガイドにかかる調査を行う。
- ウ 友の会、賛助会については、会員証提示による優待割引を実施する。

（京都国立近代美術館）

- ア 京都市との連携により、京都市教育委員会が主催する「京都市博物館ふれあいボランティア養成講座」修了者の中からボランティアを受け入れ、来館者へのアンケート調査等に携わってもらうことで、ボランティアの経験、知識の向上等に協力する。
- イ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館、奈良国立博物館及び国立民族学博物館等と連携して会員証等の提示による優待割引を実施する。
- ウ 友の会制度を見直し、新たに年間パスポート「京都国立近代美術館 OK パスポート」を導入し、来館者サービスの向上を図る。

（国立西洋美術館）

- ア ボランティア・スタッフによる、小・中・高等学校生の団体を対象とした所蔵作品展でのスクール・ギャラリートーク、ファミリープログラム、週末の一般向け「美術トーク」及び「建築ツアー」の令和4年度の再開に向けて、各プログラムに関するスキルアップ研修を、オンラインも活用し、実施する。
- イ ボランティア・スタッフの美術、美術館への興味を高めるとともに、交流を図るためのエクスカーション又はオンラインでの交流会を実施する。

（国立国際美術館）

- ア 学生ボランティアを受け入れ、美術資料の整理、ワークショップ等の補助業務を通じて、美術館活動に参画する機会と実務経験を積む機会を提供する。
- イ 友の会制度を廃止し、新たに年間パスポート「国立国際美術館OKパスポート」を導入し、来館者サービスの向上を図る。
- ウ 賛助会制度を新設し、会員証提示による優待割引を実施するとともに、ミュージアムショップなどでの割引を実施する。

（国立新美術館）

- ア 国立新美術館サポート・スタッフとして学生ボランティアを受け入れ、美術館における業務の補助を通じた実務経験の機会を提供する。
- イ 教育普及事業等への企業協賛獲得に積極的に取り組む。
- ウ 近隣関係施設と連携・協力し、「六本木アート・トライアングル」を構成して、展覧会スケジュールが入ったマップの配布や、美術の普及につながる活動を行う。
- エ 協賛企業のボランティアと連携した教育プログラムの開発・実施。

③ 国立映画アーカイブにおいては、映画フィルム等の所蔵作品の活用を図った教育普及事業の充実を図る

- ア 上映会・展覧会におけるトークイベント等の実施〔再掲〕

イ 新たに復元した映画の上映と講演会の実施〔再掲〕

ウ 研究員の解説や弁士の公演等も交えながら映画の多様性に触れる機会を提供する「こども映画館 2021 年の夏休み★（仮称）」の実施〔再掲〕

（５）調査研究の実施と成果の反映・発信

国立美術館における美術作品の収集・展示・保管、教育普及、情報の収集・提供その他の美術館活動の推進を図るため、別表２のとおり各館において調査研究を計画的に実施し、その成果を美術館活動の充実に生かす。実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関との連携を図る。また、募集情報等の共有を図り、科学研究費補助金等の研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進する。

また、国立映画アーカイブにおいては、映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究を別表２のとおり計画的に実施する。

さらに、館外の学術雑誌、学会等に掲載・発表するとともに、館の広報誌、研究紀要、図録を発行するなど、調査研究成果の多様な発信に努める。

（東京国立近代美術館）

展覧会に伴う図録・小冊子、研究紀要、東京国立近代美術館ニュース『現代の眼』（電子ジャーナル）及び『東京国立近代美術館活動報告』等の刊行物を発行する。

〈本館〉

ア 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」及び「英語セルフガイド・プチ」を発行する〔再掲〕。

イ 「デジタル版セルフガイド」を所蔵作品展にて配信する〔再掲〕。

〈工芸館〉

ア 一般観覧者向けの「鑑賞カード」等鑑賞補助教材の配布又は配信する〔再掲〕。

イ 児童を対象とするオンラインセルフガイド等を配信する〔再掲〕。

ウ ２Ｄ及び３Ｄ鑑賞鑑賞システムを公開する〔再掲〕。

（京都国立近代美術館）

ア 展覧会に伴う図録、京都国立近代美術館ニュース『視る』、『京都国立近代美術館活動報告』及び研究論集『CROSS SECTIONS』等の刊行物を発行する。

イ コレクション・ギャラリーでの展示替え毎に、展示の解説をホームページ上に公開する。

ウ 近代工芸の展開を京都国立近代美術館のコレクションによって紹介する展覧会「モダンクラフトクロニクル」に併せて約3,000点にのぼる工芸コレクションの所蔵作品目録を刊行する。

エ 令和２年度に新たに収蔵した岸田劉生作品群に既蔵の作品群を加えた岸田劉生作品に関する刊行物を発行する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 上映会や展覧会に伴い『NFAJ ニュースレター』等の刊行物を発行する。
- イ 上映会や展覧会では、上映作品や出品リスト情報をホームページ上に公開する。
- ウ セミナーの再録を、ホームページ上に公開する。

(国立西洋美術館)

『国立西洋美術館研究紀要』、『国立西洋美術館報』、『国立西洋美術館ボランティア活動報告書』、『国立西洋美術館教育普及活動の記録』等の刊行物を発行する。

(国立国際美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、『国立国際美術館ニュース』、『国立国際美術館活動報告』等の刊行物を発行する。
- イ 鑑賞補助教材「アクティヴィティ・ブック」を発行する〔再掲〕。

(国立新美術館)

- ア 展覧会に伴う図録、『国立新美術館 活動報告』等の刊行物を発行する
- イ 『国立新美術館研究紀要』をリニューアルし発行する。
- ウ 鑑賞ガイドを発行する。

(6) 快適な観覧環境等の提供

- ① 各館において、動線の改善や鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮するための工夫を行う。
また、多言語化を含め、より良い鑑賞環境を提供するための様々な方途について検討する。
なお、アンケート調査等の結果を踏まえ、快適な観覧環境等の提供に努める。

(国立美術館全体)

- ア 所蔵作品展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- イ 企画展において、キャプション・解説パネル・出品リストや音声ガイド等の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を実施する。
- ウ 館内において無料Wi-Fiを提供する。

(本部)

- ア 国外の主要メディアに各館を紹介するプレスリリースを配信するなど、外国人観光客の来館促進につながる広報を行う。
- イ 「非来館者調査」を実施し、結果を各館の来館者サービス充実等に活用する。
- ウ 一般向けの国立美術館の紹介パンフレット（日本語、英語、中国語、韓国語）を制作し、各館、観光案内所及び宿泊施設等で配布することで、法人の認知度の向上及び集客に努める。
- エ 法人概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

- ア 「美術館の春まつり」「MOMATサマーフェス」など、歳時にあわせた全館イベントを企画・実施する。その際は地域と連携するなどし、館の魅力を上げるとともに来館者層の拡大を図る。
- イ 夏季期間、夜間開館周知のための広報施策を都内の美術館・博物館等と連携して実施する。
- ウ 来館者サービス充実に向け、電子アンケート（日本語、英語）を活用する。
- エ 年間の展覧会カレンダーをホームページ等で早期に公開し、周知を図る。
- オ 一般向けの館紹介パンフレット（日本語、英語）の配布、ホームページの充実などにより、館の認知度の向上及び集客に努める。
- カ 館概要（日本語、英語）を作成し、ホームページで公開する。
- キ 小・中学生向け鑑賞ツール「セルフガイド」、未就学児向け鑑賞ツール「セルフガイド・プチ」「英語版セルフガイド・プチ」を配布する〔再掲〕。
- ク 「デジタル版セルフガイド」を所蔵作品展で配信する。
- ケ デジタルサイネージを活用し、館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- コ キャプション・解説パネル・出品リスト等の視認性の向上について必要な改善を行う。
- サ 作品解説アプリを用いて展示解説情報（日本語、英語、中国語、韓国語）を提供する。

〈工芸館〉

- ア 各作品の注目ポイントを写真と文章で明示した「鑑賞カード」の充実を図り〔再掲〕、来館者やオンラインコンテンツを求める工芸愛好家が興味深く鑑賞でき、また学校関係者が教材として活用できるよう情報提供に努める。
- イ 工芸の専門的知識を持たない児童や外国人を対象とするオンラインセルフガイド等を配信し、工芸鑑賞の普及に努める〔再掲〕。
- ウ 2D及び3D鑑賞鑑賞システムの充実を図り、リピーターにも楽しめる情報提供を行う〔再掲〕

(京都国立近代美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、独語、仏語、西語、伊語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 年間の展覧会案内（日本語、英語）を配布する。
- ウ 小・中学生に対してガイドブックを配布する。
- エ 京都国立博物館、京都市京セラ美術館、京都府京都文化博物館と共同して、年間展覧会案内を配布し、展覧会案内を利用したスタンプラリーを実施する。
- オ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

(国立映画アーカイブ)

- ア 上映会・展覧会の年間カレンダー（日本語、英語）を作成し、ホームページ上でも提示する。
- イ パンフレット（日本語、英語）を作成・配布し、ホームページ上に掲載する。
- ウ 長瀬記念ホール OZU での上映前に、開催中及び次回の上映会・展覧会についての広報と鑑賞マナーのアナウンスを映写する。
- エ 上映会の開催に際し、上映作品のリストを兼ねた広報物を作成・配布し、ホームページ上でも提示する。
- オ 正面入口両サイドに上映会・展覧会等の情報をデジタルサイネージで提示する。

(国立西洋美術館)

令和3年度は全館休館となるため、所蔵作品展及び企画展の開催はなし。

(国立国際美術館)

- ア 小・中学生向け鑑賞補助教材「ジュニア・セルフガイド」（所蔵作品展作品鑑賞のためのワークシート）、「アクティヴィティ・ブック」（作品鑑賞のためのアクティヴィティを提案している冊子）を配布する。
- イ 展覧会スケジュール（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- ウ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。

(国立新美術館)

- ア 館フロアガイド（日本語、英語、中国語、韓国語）を配布する。
- イ 展覧会カレンダー（日本語、英語）を作成・配布する。
- ウ 展覧会において鑑賞ガイドを作成・配布する。
- エ 文字を大きくし、見やすくした「大きな文字の利用案内」を配布する。
- オ タブレットを介したテレビ電話形式による同時通訳システムや通訳機を導入し、海外からの来館者対応を円滑にする。
- カ デジタルサイネージを活用し館内案内の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）を図る。
- キ QRコードを用いて、展覧会場の解説の多言語化（日本語、英語、中国語、韓国語）情報を提供する。

- ② 入館料及び開館時間の弾力化等により、入館者サービスの向上を図るため、次のとおり実施する。

(国立美術館全体)

- ア 若年層の鑑賞機会の拡大を図るため、高校生以下及び18歳未満の展覧会観覧料無料化を実施する。また、大学等を対象とする会員制度「キャンパスメンバーズ」の学生向けウェブサイトの充実や普及広報等に努め、利用者増加及び加入校増加を目指す。
- イ 65歳以上の来館者について所蔵作品展の無料化を実施する。

- ウ 所蔵作品展及び企画展において、原則金曜日及び土曜日の開館時間を午後8時まで延長する。
- エ 展覧会の混雑状況等を考慮し、開館日・開館時間等について柔軟な対応を行う。
- オ 「国際博物館の日」を記念して、展覧会の実施形態に応じ観覧料の無料化や割引を実施する。
- カ 東京国立近代美術館本館及び国立映画アーカイブは東京都が実施する外国人旅行者への観光事業「東京トラベルガイド」に参加し、外国人旅行者に対して所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引を実施する。
- キ 東京国立近代美術館本館、国立映画アーカイブ及び国立新美術館は、共通入館券事業「ぐるっとパス 2021」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ク 京都国立近代美術館及び国立国際美術館は、共通入館券事業「ミュージアムぐるっとパス・関西 2021」に参加し、観覧料の割引を実施する。
- ケ 東京国立近代美術館本館及び国立映画アーカイブは東京都が実施する青少年育成事業「家族ふれあいの日」に参加し、所蔵作品展及び国立映画アーカイブの展覧会の観覧料の割引又は無料化を実施する。
- コ 東京国立近代美術館、京都国立近代美術館及び国立国際美術館では所蔵作品展チケットの、国立新美術館では企画展チケットのオンライン販売を実施する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

- ア 所蔵作品展を観覧できるパスポート観覧券の販売促進に努める。
- イ 千代田区、東京メトロ、JAF、日本私立学校振興・共済事業団、学士会等と提携し、会員証等の提示による優待割引を実施、当該広報誌による展覧会広報とともに観覧料の低廉化を行う。
- ウ 東京観光情報センター、東京シティアイ等と連携・協力し、外国人観光客及び東京への観光者に美術館の基本情報及び展覧会情報を提供する。
- エ クレジットカード、電子マネー（Suica 及び PASMO 等）及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。

〈工芸館〉

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 石川県・金沢市が運営する近隣美術館との観覧料の相互割引を行う。
- ウ 石川県が推進する「加賀百万石回遊ルート SAMURAI パスポート」に参加し、当該広報物による展覧会広報とともに割引による観覧料の低廉化を行う。

(京都国立近代美術館)

- ア クレジットカードによる観覧券の窓口販売を行う。
- イ 株式会社京阪カード、株式会社阪急阪神カード等と提携し、カード提示による優待割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 京都国立博物館、京都府京都文化博物館、京都市京セラ美術館との観覧料の相互割

引を実施する。

(国立映画アーカイブ)

- ア 長瀬記念ホール OZU と小ホールの上映時間の重複を極力避けた柔軟なタイムテーブルの編成を、1日3回上映も含めて検討し、来館者の鑑賞機会の増加に努める。
- イ 社会人や遠方に住む上映会鑑賞希望者の利便性を高めるため、また、新型コロナウイルス感染症予防策として前売指定席券を販売する。
- ウ 外国人の鑑賞を促進するため、多言語による上映環境の整備に向けて検討を行う。
- エ 視覚・聴覚障害者のためのバリアフリー上映を実施する。
- オ インターネット購入を含めた上映会観覧券購入のための新システムの導入について検討を行う。
- カ 上映会の鑑賞者に対し、当日の展覧会観覧料の割引を行う。
- キ 展覧会において、電子マネー（Suica 及び PASMO）による観覧券の窓口販売を行う。

(国立西洋美術館)

令和3年度は全館休館となるため、所蔵作品展及び企画展の開催はなし。

(国立国際美術館)

- ア クレジットカード及び QR コード決済サービス（訪日外国人向け）による観覧券の窓口販売を行う。
- イ 「大阪周遊パス 2021」、大阪市高速電気軌道株式会社（大阪メトロ）「エンジョイエコカード」等に参加し、観覧料の低廉化を図る。
- ウ 近隣のホテル等と提携し、展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。
- エ 京阪カード会社、阪急阪神カード会社等と提携し、カード提示による割引を実施し、同社の広報誌による展覧会広報を行うとともに、観覧料の低廉化を図る。

(国立新美術館)

- ア 「六本木アート・トライアングル」を構成する近隣の美術館と観覧料の相互割引を行う。
- イ 美術団体等と協議の上、企画展及び公募展の観覧料の相互割引の実施を推進する。
- ウ 同時期に開催する企画展の相互割引を実施する。
- エ 新型コロナウイルス感染症の状況に対応しつつ、共催者と協議の上、共催展の高校生無料観覧日を設定する。
- オ クレジットカード、電子マネー（Suica及びPASMO等）による観覧券の窓口販売を行う。
- カ 小学生以下の子供を対象とした託児サービスを通年で実施する。

③ 利用者のニーズを踏まえ、ミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

- ア 東京国立近代美術館本館では、レストランと連携し、展覧会に合わせたコラボレーションメニューを提供するなど、来館者サービスの向上を図る。ミュージアムショッ

プでは、オリジナルグッズを企画販売する

イ 東京国立近代美術館工芸館では、ミュージアムショップの販売活動を通じて「日本のものづくり」の魅力を国内外に発信することを目指し、管理・研究部門協働によって各地の工芸やデザインの優品を選び、商品解説や制作者紹介の充実にも努める。また、北陸地域の企業との連携によるオリジナルグッズを作成して販売する。

ウ 京都国立近代美術館では、カフェと連携、協力し、展覧会にあわせたテーマランチやテーマデザートを提供を行う。また、ミュージアムショップでは、新しいオリジナルグッズを製作し、展覧会にあわせた関連書籍やグッズをより充実させる。

エ 国立映画アーカイブでは、1階ロビーにおいて NFAJ ニュースレター及び展覧会図録等を販売する。

オ 国立西洋美術館では、来館者サービスの向上を図るため、ミュージアムショップにふさわしいオリジナルグッズの開発、販売方法等を引き続き検討するとともに、オンラインショップ(令和2年度末開設予定)の充実に努める。

カ 国立国際美術館では、レストランにおいて展覧会に関連したメニューの提供等を行うとともに、ミュージアムショップと連携・協力してホームページに掲載されている商品情報等を充実させる。

キ 国立新美術館では、ミュージアムショップと連携し、オリジナルグッズの開発やショップ内のギャラリーの展示に対する企画協力を行い、美術館の魅力の創出に努める。また、レストランと協力し、展覧会やオリンピックイヤーに関連した特別メニューの提供など、利用者へのサービス向上を図る。

2 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示し得るナショナルコレクションの形成・継承

(1) 作品の収集

- ①-1 各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。作品の収集に当たっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適切な購入を図る。また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機動性の向上に努める。

あわせて、購入した美術作品に関する情報をホームページで公開する。

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

近代日本美術の体系的コレクションの構築を図りつつ、近代日本美術に影響を与えた海外作家の作品、及び日本と海外の同時代美術作品の収集を次の点について留意しながら積極的に行う。

ア 1970年代以降の日本と海外の作品の収集

イ 日本の美術に影響を与えた海外作家の作品の収集

ウ 1900～1940年代の日本画作品の収集

〈工芸館〉

次の点について留意しつつ、近代日本における工芸の体系的コレクションの充実を図

る。

ア 日本工芸の近代化を示す作品の補充

イ 戦後から現代に至る伝統工芸や造形的な表現、クラフト等の重要作品の収集

ウ 近・現代の欧米の工芸及びデザイン作品の収集

(京都国立近代美術館)

ア 近・現代美術史の将来的検証に資する作品・資料を収集する。

イ 絵画、彫刻、版画、素描類、工芸（陶芸・漆芸・金工・染織など）・デザイン、写真など、芸術の動向に係る作品・資料をジャンルの区別なく収集するだけでなく、複数のジャンルを横断する作品も積極的に収集対象とする。

ウ 日本の作品については、全国の動向に目配りしつつも、京都を基盤とし、関西さらには西日本での芸術活動に重点を置き、所蔵作品の充実を図る。

エ 国外の作品については、日本の芸術と世界の関係に鑑み、日本へ／からの影響関係が認められる作品の収集に重点を置く。特にダダイスムのような、芸術におけるパラダイムシフトに大きな役割を果たした動向の作品に注目する。

(国立西洋美術館)

ア 15～20 世紀ヨーロッパ絵画等の収集に努める。

イ ドイツ・フランドル・イタリア・フランスを中心にヨーロッパ版画のコレクションを充実させる。

ウ 国内外に残る旧松方コレクション作品の情報収集を継続する。

(国立国際美術館)

ア 1945 年以降の日本の現代美術作品の系統的収集を継続する。

イ 国際的に注目される国内外の同時代の美術作品の収集を継続する。

①-2 寄贈・寄託作品の受入れを推進するとともに、所蔵作品展等における積極的な活用を図る。

①-3 法人本部が管理する美術作品購入費については、緊急を要する美術作品や通常の予算では購入できない金額の美術作品を優先的に購入することとする。購入作品の選定に当たっては法人全体で協議する。

なお、作品収集に関しては、学芸課長会議等で情報交換や連絡調整を行う。

(2) 所蔵作品の保管・管理

保管施設の狭隘・老朽化への対応として、外部倉庫の活用、関係機関等との協議、既存の収蔵庫等保管施設の改修等を進め、保管環境の改善を行う。

また、平成 31 年 3 月に策定した「収蔵庫等保管施設の狭隘・老朽化対応に係る方針」に基づき、ナショナルセンターとして担う役割にふさわしい機能を有する新たな収蔵施設の設置に向けた調査及び検討を進める。

（３）所蔵作品等の修理、修復

所蔵作品等の保存状況について、各館の連携・調整を行い、特に緊急に処置を必要とする作品について重点的に修理・修復を行う。

ア 東京国立近代美術館本館では、作品貸与時の対応も含め、保存科学と修復に関する外部の専門家との定常的な連携を進める。特に、近年新たに収蔵した作品で修復が必要なものや、作品の安全性・鑑賞性を高める額装の改変などを中心的に進める。

イ 東京国立近代美術館工芸館では、展示や貸出等の活用頻度の高い工芸作品のうち染織と漆工作品の現状保存修復を引き続き行う。また、過去の展覧会に出品されたポスターのクリーニング等を行う。さらに、移転に伴い、作品の外箱を作成する。

ウ 京都国立近代美術館では、寄贈により収集したものの、作品保護の観点から展示に活用できていない美術作品の保存修復処置を優先的に行う。特に、経年劣化による影響の大きい日本画を中心に進め、京都国立近代美術館での展示のみならず、作品貸与の依頼にも応えられるようにする。

エ 国立西洋美術館では、展示や貸出の活用機会の多い近代絵画作品、版画・素描作品等の保存修復処置を行う。近年収蔵した旧松方コレクションについても、整理・調査及び保存修復作業を継続して実施し、速やかに展示活用できる状態にすることに努める。保存修復室と保存科学室で作品の科学調査を進め、作品の制作技術や材料についての調査研究にも努める。

オ 国立国際美術館では、展示・貸出予定のある作品、新収蔵作品を優先的に、作品の状態を確認し、必要な修復等の処置を施す。特に、現代美術に特有の修理・修復の課題（新しい素材や映像の取扱い）に積極的に取り組み、適切な処置に努める。

カ 国立新美術館では、保存状態が悪く、そのままでは利用が難しい所蔵資料について、デジタル画像作成を含めた保存修復措置を行う。

（４）所蔵作品の貸与

所蔵作品について、各館においてその保存状況や展示計画を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に実施する。

３ 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

（１）国内外の美術館等との連携・協力等

① 各館において国内外の研究者を招へいし、展覧会の開催等に合わせ各種講演会・セミナー・シンポジウムを開催する。

ア 東京国立近代美術館では、「隈研吾展 新しい公共性をつくるためのネコの五原則」にあわせ、国内外の建築家、研究者を招聘して、シンポジウムや講演会を開催する。また、「あやしい絵展」、「柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年」、「没後50年 鎗木清方展（仮称）」に際し、作家や研究者を招聘して、シンポジウムや講演会を開催する。

イ 京都国立近代美術館では、「ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island —あなたの眼はわたしの島—」展、「発見された日本の風景 外から見る／外へ見せる」展、「上野リチ：ウィーンからきたデザイン・ファンタジー」展、「京・大坂画壇の文化サロン（仮称）」展開催に際し、アーティストや国外研究者を招聘し、シンポジウムや講演会を開催する。

ウ 国立西洋美術館では、令和3年度は全館休館となるため、講堂での講演等は予定しないが、国立美術館地方巡回展の各会場で国立西洋美術館担当研究員と各会場担当研究員の連携による講演会を開催する。

エ 国立国際美術館では、「Viva Video! 久保田成子展」開催にあわせ、アメリカ、シンガポールからビデオ・アート等の研究者を招聘し、シンポジウム等を開催する。

また、アジアにおけるタイムベースド・メディア研究を進めるためソウル・メディアシティ・ビエンナーレなどの海外機関と連携しオンライントーク等を開催する。

そのほか、国際的な専門家ネットワーク構築に取り組む文化庁事業「文化庁アートプラットフォーム事業」に参画する。

オ 国立新美術館では、「ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会」展では国内の研究者を招聘した講演会とシンポジウムを、「マティス 自由なフォルム」展、「オルセー美術館展」（仮称）、「メトロポリタン美術館展」（仮称）では、国外の研究者を招聘した講演会を行う。

② 展覧会等の紹介や企画に関連し、海外の美術館との連携・協力を図る。

ア 京都国立近代美術館では、令和元年度に開催した「ドレス・コード？—着る人たちのゲーム」を、令和3年5月21日から9月12日までの会期で、ドイツ連邦美術館（ドイツ、ボン）へ巡回させる。また、将来的な関係構築を視野に入れ、国外美術館からの作品借用依頼に積極的に応えることとし、令和3年度は、レンバハハウス（ドイツ、ミュンヘン）で開催される「Group Dynamics - Collectives of the Modernist Period」展に小野竹喬《郷土風景》ほか約15点の日本画、油彩画及び版画を各1点貸与する予定である。

イ 国立西洋美術館では、令和3年度末から令和4年度にかけてフォルクヴァング美術館（ドイツ、エッセン）と相互の所蔵品による二部制の展覧会「Matsukata x Osthaus（仮）」（令和4年2月4日～5月15日）、「人と自然（仮）」（令和4年6月4日～9月11日）を共同研究・共同開催する。また国立美術館巡回展として令和3年秋に、山形美術館と高岡美術館において「国立西洋美術館コレクションによる「山形で考える西洋美術」高岡で考える西洋美術—〈ここ〉と〈遠く〉が触れるとき」を各館と共同研究の上、開催する。

ウ 国立国際美術館では、「Viva Video! 久保田成子展」に関連して、同年に久保田の夫である世界的ビデオ・アーティスト、ナム・ジュン・パイクの個展を開催するシンガポール・ナショナル・ギャラリーと協働して、シンポジウムを開催する。

エ 国立新美術館では、日本におけるフランス祭「ラ・セゾン」（令和3年10月～令和4年3月）に連動し、ニース市マティス美術館と共同企画している「マティス 自由なフォルム」展及びラ・セゾンのために企画され、オルセー美術館と継続して進めてきた「オルセー美術館展」（仮称）を開催予定。日本とゆかりの深いフランス美術の展覧会を、フランス政府、フランス大使館と共同して盛り上げていく。

③ 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を適時行うとともに、地方巡回展の開催、企画展の共同主催やそれに伴う共同研究等を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に取り組む。

- ④ 「アート・コミュニケーション推進センター(仮称)」において、所蔵作品のデジタル化・データベース化を主導して進める。

(2) ナショナルセンターとしての人材育成

- ① 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、次の事業を行う。

ア 小・中学校の教員や学芸員が、学校や美術館で活用できる鑑賞教育用教材の普及を図る。

イ 各地域の学校と美術館の関係の活性化を図るとともに、子供たちに対する鑑賞教育の充実に資するため、各地域の鑑賞教育や教育普及事業に携わる小・中・高等学校の教員と学芸員等が、グループ討議等を行う「美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修」を、国立美術館の研究員の研究成果と協働により実施する。

また、令和3年度は実地研修とオンライン研修を織り交ぜながら実施する。

あわせて、法人ホームページでの開催概要及び開催報告の掲載を通じ幅広い層への広報に努める。

期間：令和3年11月29日(月)、12月5日(日)

会場：東京国立近代美術館本館・工芸館、京都国立近代美術館、国立国際美術館

募集人員：90名

- ②-1 公私立美術館の学芸担当職員を対象としたキュレーター研修を実施し、その専門的知識及び技術の普及向上を図る。

研修希望者の募集に際しては、前年度と同様に研修を受け入れる国立美術館各館の展覧会概要及び受入れ可能な研修分野の情報を提示し9月に公募を開始する。

- ②-2 美術館活動を担う人材の育成に資するようインターンシップ等の事業を次のとおり実施する。

ア 各館（東京国立近代美術館工芸館及び国立西洋美術館を除く）においてインターンシップ制度を実施する。

イ 国立映画アーカイブにおいて、大学生の学芸員資格取得のための博物館実習を実施する。

ウ 国立映画アーカイブにおいて、映画保存に関わる人材育成プログラムとして、アーカイブセミナーや映画フィルムの映写と取扱いに関するワークショップを開催

エ 国立西洋美術館において、大学院（東京大学大学院人文社会系研究科）と連携して美術館運営に関する教育を行う。

オ 国立新美術館において、近隣の政策研究大学院大学との連携の一環として、展覧会等に関するガイダンスや美術館建築の機能を紹介する建築ツアー等を実施する。

(3) 国内外の映画関係団体等との連携等

国立映画アーカイブでは、我が国の映画文化振興の中核的機関として、国内外の映画関係団体等と連携しながら次の取組を実施する。

- ① 映画を芸術作品のみならず、文化遺産として、あるいは歴史資料として、網羅的に収集することを目標に、日本映画の収集を優先しながら、時代を問わず散逸や劣化、滅失

の危険性が高い映画フィルム等及び上映事業や国際交流事業に必要な映画フィルム等の収集を行う。なお、収集にあたっては、自主製作映画等企業の管理下に置かれない映画の収集にも配慮することとし、受贈については、デジタル素材の受入れも視野に入れながら、映画のデジタル化に伴い散逸の危機に瀕しているプリントやフィルム原版の受入れも重点的に実施することとする。映画資料については、日本映画に関わるものを中心に、作品レベルでの網羅性を向上させるとともに、映画史の調査研究に資する幅広い種類の資料の収集を行う。加えて、本年度は特に次の点について留意する。

ア 海外のフィルムアーカイブから収集した映画作品や、歴史的に重要な映画作品等のデジタル復元を実施する。

イ フィルム、デジタルともにオリジナルフォーマットを重視した収集を行う。

- ② 可燃性フィルムや大型映画、小型映画などの特殊なフォーマットを含む映画フィルムの検査体制の充実を図り、劣化等に応じた柔軟な処置を施せるよう、フィルムの保管・保存・復元について、情報収集に努めるとともに、映画史的に重要なカラーシステムや、70mmフィルム等大型映画、3D映画等の適切な保存・復元に向けての調査・作業を継続する。映画の復元については、現存する最良の素材をもとに、オリジナルの再現を目指したワークフローにより実施する。また、映画ポスターやシナリオ、プレス資料、図書、雑誌といった映画資料についても保存修復措置を行いながらデジタル化を図る。

- ③ 国内外の同種機関や映画祭等が開催する上映会・展覧会に対し貸与を通して協力し、保存・復元の成果や、日本映画を中心に充実を図っているコレクションの活用・発信を図る。また、所蔵作品及び関連情報へのアクセスの増大と多様化への効率的な対応を念頭に、デジタル・ファイルも含めたフィルム・コレクションへのアクセス対応を実施する。

- ④ 上映会や展覧会及び教育普及に関わる講演会及びセミナー等を開催する。また、ユネスコ「世界視聴覚遺産の日」（10月27日）に関連した講演会等を開催する。

- ⑤ 海外において、新型コロナウイルス感染症のために令和2年度から延期となった以下の共催上映を実施する。

ア 清水宏 一映画の野生児

期間：令和2年4月から5月

会場：シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館

共催：シネマテーク・フランセーズ、パリ日本文化会館

イ 第34回ボローニャ復元映画祭

期間：令和2年6月（予定）

会場：チネテカ・ディ・ボローニャほか（イタリア・ボローニャ）

共催：フォンダツィオーネ・チネテカ・ディ・ボローニャ

- ⑥ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）加盟機関及び国内映像関連団体並びに研究機関等と情報交換を図りながら、映画フィルムの保存・修復活動等に携わる機関や団体へ

の協力を行う。

- ⑦ 国内外で実施される各種映画祭や大学等の映画・映像に関する研究会等に協力する。
- ⑧ 「国立映画アーカイブ・大学等連携事業」の一環として、国立美術館キャンパスメンバーズ（東京国立近代美術館及び国立映画アーカイブ利用校）とともに、国立映画アーカイブの所蔵映画フィルムと施設を利用した講義等を実施する。
- ⑨ 文化庁が実施する「日本映画情報システム」事業に協力し、「国立映画アーカイブ 所蔵映画フィルム検索システム」への接続を通じた所蔵情報の公開を行う。
- ⑩ 国際フィルム・アーカイブ連盟（FIAF）会議に研究員等が出席する。

Ⅱ 業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

1 業務運営の取組

業務運営の一層の効率化を進めるため、次のような措置を講ずる。

（１）省エネルギー

観覧環境を阻害しない範囲において、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」に基づく中長期計画に沿って、エネルギー使用量の削減に努める。

（２）共同調達等の推進

共同調達等を推進し、業務の効率化に努める。

2 組織体制の見直し

独立行政法人の業務運営の柔軟性を生かし、より一層のサービス向上を実現するため、渉外、広報機能の強化等、ICT への対応の強化等、組織・体制の強化に努める。

3 契約の点検・見直し

「調達等合理化計画」の策定及び国立美術館契約監視委員会の開催（１回程度）により、随意契約及び一般競争入札について点検、見直しを行う。その結果も踏まえ、一般競争入札及び企画競争・公募による競争性のある契約方式及び契約の包括化を推進する。

4 共同調達等の取組の推進

周辺の機関と連携し、次の品目について、共同調達を推進する。

- ア コピー用紙
- イ トイレトペーパー
- ウ 廃棄物処理
- エ トイレ用洗浄、脱臭器具の賃貸借
- オ 電気

5 給与水準の適正化等

国家公務員の給与水準等とともに業務の特殊性を十分考慮し、対国家公務員指数については適正な水準を維持するよう取り組み、その結果について検証を行うとともに、検証結果や取組状況を公表する。

また、令和3年度においてもこれまでの人件費改革の取組の効果が活きるよう、より一層の組織の見直し等に努める。

6 情報通信技術を活用した業務の効率化

法人内の情報システムネットワークを基盤として、バックアップ・インフラの増強に努めつつ、クラウド・サービス（外部情報サービス）を組み合わせることで、多様化する業務形態への対応と情報セキュリティの実現を両立できるように、仮想化サーバーの利用促進、外部から館内インフラへの安全なアクセスの実現といった情報通信技術を活用した業務の効率化を進める。それとともに、職員への情報セキュリティ教育を継続的に実施し、運用面からの安全性の向上に努める。

7 予算執行の効率化

共同調達や競争入札を推進し、予算の効率的な執行に努める。

Ⅲ 予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画

1 自己収入の確保

施設利用等の施設貸出収入や会員制度による会費収入の増加などに取り組み、自己収入の増加を目指す。また、寄附金等外部資金の獲得促進に取り組む。

2 保有資産の有効利用・処分

保有する美術館施設等の資産については、外部貸出による講堂等の利用率の向上及び閉館時等におけるエントランスロビー等の活用を図るとともに、保有の目的・必要性について不断の見直しを行い、保有の必要性が認められないものについては、不要財産として国庫納付等を行う。

3 予算（年度計画の予算）

別紙1のとおり。

4 収支計画

別紙2のとおり。

5 資金計画

別紙3のとおり。

Ⅳ その他主務省令で定める業務運営に関する事項

1 内部統制・ガバナンスの強化

- (1) 理事長裁量経費を計上し、理事長がリーダーシップを発揮できる環境を整備する。外部の有識者による運営委員会に対し国立美術館の管理運営に関して諮問を行い、審議結果を運営管理に反映させるなど内部統制の充実を図る。
- (2) 国立美術館が安定してその情報コンテンツを国民に提供できるように情報管理の安全性の向上を図るとともに、コンピュータウィルスに関連する情報を職員に周知するなど、情報セキュリティ対策の向上と改善を行う。
また、「国立美術館情報資産安全対策基本方針」、「国立美術館情報セキュリティポリシー」を踏まえ、安全管理のための実施細則の策定を進める。
- (3) 内部統制・ガバナンスの強化に係る取組状況等については内部監査、監事監査等において定期的に検証し、必要に応じて見直しを行う。また、業務運営全般については、外部評価委員会及び運営委員会を開催し、指摘内容について理事会等において検討し、組織、事務、事業等の改善に反映させる。また、「国立美術館外部評価報告書」については法人ホームページで公表する。

2 施設・設備に関する計画

- (1) 施設・設備に関する計画に沿った整備を推進する。
令和3年度は、令和元年度補正予算措置に基づき、国立西洋美術館総合改修その他工事を進める。
- (2) 国立新美術館の用地（未購入の土地）について、施設・設備に関する計画に基づき、予算措置に応じて購入を進める。

3 人事に関する計画

(1) 方針

- ① 職員の意識向上を図るため、次の職員研修を実施する。
- ア 新規採用者研修
 - イ 接遇研修
 - ウ メンタルヘルスケアに関連する研修
 - エ 情報セキュリティ研修
 - オ コンプライアンス研修
- ② 外部の研修に職員を積極的に派遣し、その資質の向上を図る。特に研究職職員への研修機会の増大に努める。

(2) 人員に係る指標

給与水準の適正化等を図りつつ、業務内容を踏まえた適切な人員配置等を推進する。また、任期付研究員及びアソシエイトフェロー制度並びに特定有期雇用職員制度のより一層

の活用を図る。

4 積立金の使途

前中期目標期間の積立金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、当期に繰り越された経過勘定損益影響額等に係る会計処理に充当する。

また、今中期目標期間の前期までに生じた剰余金のうち文部科学大臣の承認を受けた金額について、中期計画に定める使途に係る経費等に充当する。

5 その他

(1) 「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」(平成 25 年 12 月 24 日閣議決定)に基づき、業務運営に関して様々な工夫・努力を行う。

(2) 日本美術及び国内美術館の振興を図るとともに、SDGs(持続可能な開発目標)の実現や文化観光振興等に寄与するため、令和 3 年度中に「アート・コミュニケーション推進センター(仮称)」を設置する。

別紙1
予算(年度計画の予算)

令和3年度予算

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
収 入					
運営費交付金	2,634	3,341	1,497	1,040	8,512
展示事業等収入	1,090	3	7	2	1,102
寄附金収入	0	0	0	650	650
施設整備費補助金	0	0	0	100	100
賞与引当金見返に係る収益	42	10	14	24	90
退職給付引当金見返に係る収益	30	7	10	12	59
計	3,796	3,361	1,528	1,828	10,513
支 出					
運営事業費	3,796	3,361	1,528	1,078	9,763
人件費	471	131	157	417	1,176
賞与引当金見返	42	10	14	24	90
退職給付引当金見返	30	7	10	12	59
一般管理費	0	0	0	625	625
事業部門経費	3,253	3,213	1,347	0	7,813
うち美術振興事業費	3,253	0	0	0	3,253
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	3,213	0	0	3,213
うちナショナルセンター事業費	0	0	1,347	0	1,347
寄附金事業費	0	0	0	650	650
施設整備費	0	0	0	100	100
計	3,796	3,361	1,528	1,828	10,513

別紙2
収支計画

令和3年度収支計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
費用の部					
経常経費	3,872	750	1,326	1,718	7,666
人件費	471	131	157	417	1,176
賞与引当金見返	42	10	14	24	90
退職給付引当金見返	30	7	10	12	59
一般管理費	0	0	0	604	604
事業部門経費	3,233	586	1,122	0	4,941
うち美術振興事業費	3,233	0	0	0	3,233
うちナショナルコレクション 形成・継承事業費	0	586	0	0	586
うちナショナルセンター事業費	0	0	1,122	0	1,122
寄附金事業費	0	0	0	650	650
減価償却費	96	16	23	11	146
収益の部					
経常収益	3,872	750	1,326	1,718	7,666
運営費交付金収益	2,614	714	1,272	1,019	5,619
展示事業等の収入	1,090	3	7	2	1,102
寄附金収益	0	0	0	650	650
資産見返運営費交付金戻入	90	15	22	11	138
資産見返寄附金戻入	4	1	1	0	6
資産見返物品受贈額戻入	2	0	0	0	2
賞与引当金見返に係る収益	42	10	14	24	90
退職給付引当金見返に係る収益	30	7	10	12	59

別紙3
資金計画

令和3年度資金計画

(単位:百万円)

区 分	美術振興事業	ナショナル コレクション 形成・継承事業	ナショナル センター事業	共 通	合 計
資金支出	3,724	3,344	1,504	1,792	10,364
業務活動による支出	3,704	3,339	1,481	1,671	10,195
投資活動による支出	20	5	23	121	169
資金収入	3,724	3,344	1,504	1,792	10,364
業務活動による収入	3,724	3,344	1,504	1,692	10,264
運営費交付金による収入	2,634	3,341	1,497	1,040	8,512
展示事業等による収入	1,090	3	7	2	1,102
寄附金収入	0	0	0	650	650
投資活動による収入	0	0	0	100	100
施設整備費補助金による収入	0	0	0	100	100

別表1 令和3年度 所蔵作品展・企画展 計画

(東京国立近代美術館)

〈本館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	MOMATコレクション (「美術館の春まつり」、「鉄とたたかう 鉄とあそぶ デイヴィッド・スミス《サークルIV》を中心に」、「ピエール・ボナールと日本近現代美術(仮称)」他特集及びコレクションによる小企画を含む)	—	5回展示替え	272
企画展	①あやしい絵展 ※1	毎日新聞社、日本経済新聞社	3/23(火) ～ 5/16(日)	40
	②隈研吾展—新しい公共性をつくるためのネコの5原則	文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会	6/18(金) ～ 9/26(日)	90
	③柳宗悦没後60年記念展 民藝の100年	NHK、NHKプロモーション、毎日新聞社	10/26(火) ～ 2/13(日)	91
	④没後50年 鏑木清方展(仮称) ※2	毎日新聞社	3/18(金) ～ 5/8(日)	13
	企画展 計			234

※1 通算の開催日数は49日間

※2 通算の開催日数は46日間

〈工芸館〉

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵作 品展	所蔵作品展	—	7/17(土) ～ 9/26(日) 12/25(土) ～ 3/21(月)	132
企画展	①国立工芸館石川移転開館記念展Ⅱ うちにこんなあったら展 気になるデザイン×工芸コレクション ※	—	1/30(土) ～ 4/15(木)	15
	②国立工芸館石川移転開館記念展Ⅲ 近代工芸と茶の湯のうつわ—四季のしつらい—	—	4/29(木) ～ 7/4(日)	58
	③国立工芸館石川移転開館1周年記念展 鈴木長吉《十二の鷹》と明治工芸(仮称)	—	10/9(土) ～ 12/12(日)	56
	企画展 計			129

※ 通算の開催日数は68日間

(京都国立近代美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	5回展示替え	299
企画展	①ピピロッティ・リスト：Your Eye Is My Island—あなたの眼はわたしの島—	京都新聞	4/6（火） ～ 6/13（日）	61
	②モダンクラフトクロニクル—京都国立近代美術館コレクションより—	京都新聞	7/2（金） ～ 8/22（日）	45
	③発見された日本の風景 外から見る／外へ見せる	毎日新聞社	9/7（火） ～ 10/31（日）	48
	④上野リチーウィーンからきたデザイン・ファンタジー	朝日新聞社	11/16（火） ～ 1/16（日）	49
	⑤新収蔵記念：岸田劉生と森村・松方コレクション（仮称）	毎日新聞社	1/29（土） ～ 3/6（日）	32
	⑥京・大坂画壇の文化サロン（仮称）※	—	3/23（水） ～ 5/8（日）	8
	企画展計			243

※ 通算の開催日数は42日間

(国立映画アーカイブ)

	上映会・展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
上映会	①1980年代日本映画——試行と新生	—	4/8（木） ～ 5/5（水）	24
	②NFAJ所蔵外国映画選集2021	—	5/6（木） ～ 5/23（日）	16
	③EUフィルムデーズ2021	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	5/28（金） ～ 6/20（日）	21
	④追加上映：松竹第一主義、三船敏郎、原節子	—	6/22（火） ～ 7/4（日）	12
	⑤逝ける映画人を偲んで2019-2020	—	7/8（木） ～ 9/5（日）	52
	⑥第43回びあフィルムフェスティバル	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン	9/11（土） ～ 9/25（土）	13

上映会	⑦サイレントシネマデイズ2021	—	10/5（火） ～ 10/10（日）	6
	⑧没後40年 映画監督 五所平之助	—	10/19（火） ～ 11/23（火）	31
	⑨香港映画の全貌（仮称）	—	11/30（火） ～ 12/26（日）	24
	⑩1990年代日本映画特集（仮称）	—	1/4（火） ～ 3/6（日）	54
	⑪フランス映画特集（仮称）	シネマテーク・フランセーズ	3/15（火） ～ 3/27（日）	12
	⑫レパートリー上映 2021春（仮称）	—	5/7（金） ～ 5/23（日）	9
	⑬レパートリー上映 2021秋（仮称）	—	11/5（金） ～ 11/21（日）	9
	⑭レパートリー上映 2022冬（仮称）		2/11（金） ～ 2/27（日）	9
	上映会 計			292
展覧会	①創刊75周年記念 SCREENを飾ったハリウッド・スターたち	近代映画社	4/13（火） ～ 7/18（日）	78
	②生誕120年 円谷英二展（仮称）	須賀川市	8/3（火） ～ 11/23（火）	82
	③MONDO 映画ポスターの最前線（仮称）	京都国立近代美術館	12/7（火） ～ 3/27（日）	84
	展覧会 計			244

（国立西洋美術館）

※令和3年度は全館休館となるため、所蔵作品展及び企画展の開催はなし。

(国立国際美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
所蔵 作品展	コレクション展	—	3回展示替え	176
企画展	①ミケル・バルセロ展 ※1	—	3/20 (土) ～ 5/30 (日)	53
	②Viva Video! 久保田成子展	—	6/29 (火) ～ 9/23 (木)	76
	③鷹野隆大 毎日写真 1999-2021	朝日新聞社	6/29 (火) ～ 9/23 (木)	76
	④ボイス+パレルモ (仮称)	—	10/12 (火) ～ 1/16 (日)	78
	⑤感覚の交差展 (仮称) ※2	—	2/8 (火) ～ 5/22 (日)	45
	企画展 計			328

※1 通算の開催日数は63日間

※2 通算の開催日数は91日間

(国立新美術館)

	展覧会名	共催	会期等	日数 (年度内)
企画展	①佐藤可士和展 ※1	SAMURAI、TBSグロウディア、BS-TBS、朝日新聞社、TBSラジオ、TBS	2/3 (水) ～ 5/10 (月)	36
	②ファッション イン ジャパン 1945-2020 流行と社会	島根県立石見美術館、読売新聞社、日本テレビ放送網、BS日テレ、文化庁、独立行政法人日本芸術文化振興会	6/9 (水) ～ 9/6 (月)	82
	③マティス 自由なフォルム	ニース市マティス美術館、読売新聞社	9/15 (水) ～ 12/13 (月)	79
	④アニメ・特撮文化と日本の自然観 (仮称)	朝日新聞社、日本テレビ	10/1 (金) ～ 12/19 (日)	70
	⑤オルセー美術館展 (仮称) ※2	日本経済新聞社	2/2 (水) ～ 5/9 (月)	50
	⑥メトロポリタン美術館展 (仮称) ※3	日本経済新聞社	2/9 (水) ～ 5/30 (月)	44
	企画展 計			361

※1 通算の開催日数は85日間

※2 通算の開催日数は85日間

※3 通算の開催日数は97日間

別表2 各館の令和3年度調査研究

※調査研究は以下の目的に沿って実施する。

- ア 美術作品の収集・展示・保管に関する調査研究
- イ 教育普及活動のための調査研究
- ウ 情報の収集・提供のための調査研究
- エ 映画のデジタル保存・活用等に関する調査研究
- オ その他の美術館活動のための調査研究

(東京国立近代美術館)
〈本館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
隈研吾建築の「居心地」：新しい公共性	隈研吾建築都市設計事務所	ア
民藝運動100年の軌跡と歴史的位置づけ	日本民藝館	ア
鏑木清方と明治・大正・昭和の日本画	京都国立近代美術館	ア
ゲルハルト・リヒターと戦後の抽象絵画	豊田市美術館	ア
大竹伸朗作品におけるサブカルチャー	ミネアポリス美術館	ア
「MOMATコレクション」	—	ア
「MOMATコレクション 特集：美術館の春まつり」	—	ア
「コレクションによる小企画 スミス《サークルIV》を中心に」	—	ア
「コレクションによる小企画 ボナール《プロヴァンス風景》を中心に」	—	ア
コレクションの画像を用いた来館者用体験機器開発	株式会社DNPアートコミュニケーションズ	ア、イ
デジタルカメラによる作品撮影及び画像アーカイブ構築のための撮影機材の比較	西川茂（写真家）	ア
児童生徒を対象とする所蔵作品の鑑賞教育の推進	—	イ
オンライン会議システム等を利用した対話鑑賞や遠隔授業の開発	—	イ
動画配信サービス等を利用した解説ボランティア活動の推進	—	イ
企画展示やコレクションを活用してのワークショップ、鑑賞ガイド等の推進	—	イ
ビジネスパーソンなど特定の層に向けての鑑賞プログラムの推進	山口周（独立研究者）	イ
訪日外国人に向けての英語鑑賞プログラムの推進	大高幸（アート・エドゥケーター）	イ
国立美術館の公開情報情報資源を一元的に検索・閲覧できるゲートウェイ・システムの開発	—	ウ
所蔵作品に関する画像・歴史的情報等の公開データの拡充（独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムでの公開を目標に）	—	ウ
独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムと、国立国会図書館が運営するジャパンサーチ、文化庁文化遺産オンラインとの連携の継続維持	—	ウ
美術情報の収集・提供システムの検討・拡充（図書館システム、機関リポジトリ）	—	ウ

「美術文献ガイド」等の美術情報に関するパスファインダーの作成・拡充	—	ウ
美術館におけるデジタル・アーカイブの構築	—	ウ
戦後日本の前衛美術のクロス・レファレンス的研究 1945-1955	科学研究費補助金、4年目	ア
1990年代から2000年代のロンドンにおける具象絵画に関する研究	科学研究費補助金、3年目	ア
日本における70ミリ劇映画文化の受容とそのイメージの復元	科学研究費補助金、3年目	ア
日本を中心としたアジア諸国の現代美術と美術理論に関する総合研究	科学研究費補助金、3年目	ア
写真・映像の「影響」から見た日本の前衛芸術——昭和戦前期を中心に	科学研究費補助金、3年目	オ
近現代日本のセメント美術に関する研究	科学研究費補助金、3年目	オ
塚田嘉信コレクションを起点にした初期映画史の調査	科学研究費補助金、2年目	ア

〈工芸館〉

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
近・現代工芸と茶の湯のうつわ	ジャパクラフトサケカンパニー	ア
四季・風土と茶室のしつらえ	ジャパクラフトサケカンパニー	ア
日本の近・現代陶芸史と伝統工芸	パナソニック汐留美術館、山口県立萩美術館・浦上記念館、佐賀県立九州陶磁文化館、MOA美術館、愛知県陶磁美術館、茨城県陶芸美術館、兵庫陶芸美術館、日本工芸会	ア
国立工芸館と周辺美術館・博物館との連携について	石川県立美術館、金沢21世紀美術館、金沢市立中村記念美術館ほか	ア、イ、ウ、オ
国立工芸館の環境整備	石川県、金沢市	ア、オ
児童を対象とする工芸作品の鑑賞教育の推進	—	イ
工芸制作における言語活動の推進について	金沢美術工芸大学	イ
ポップカルチャーを題材とする伝統的工芸制作について	—	ア、イ
工芸作品の鑑賞における高精細デジタルデータの作成について	シャープ株式会社、株式会社DNPアートコミュニケーションズ	イ
松田権六資料の活用について	—	ア、イ、ウ
鈴木長吉作《十二の鷹》を中心とした明治の輸出工芸の研究	—	ア
アール・ヌーヴォーと日本の工芸について	—	ア
戦後日本におけるデザイン思想の展開とその実践について	—	ア
1950年代60年代の日本における美術家とデザイナーの交流について	—	ア

「綾錦」に関する総合的研究	一般財団法人西陣織物館、川島織物文化館	オ
日系アメリカ人二世によるデザイン活動について：グラフィックデザインを中心に	—	オ

(京都国立近代美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
ピピロッティ・リストの映像作品における身体	水戸芸術館現代美術ギャラリー	ア、オ
所蔵作品（工芸）に関する研究	—	ア
明治期の油彩・水彩画家たちと西洋からの来日画家たちに関する研究	長野県信濃美術館、愛媛県美術館	ア
上野リチ・リックスに関する総合研究	三菱一号館美術館、オーストリア応用芸術博物館、京都市立芸術大学美術資料館	ア
陶芸家八木一夫による写真に関する調査・研究	茨城県陶芸美術館	ア、ウ
岸田劉生と森村・松方コレクションに関する研究	—	ア
京・大坂画壇の作品研究と文化ネットワークに関する考察	大英博物館、KU-ORCAS関西大学アジア・オープン・リサーチセンター	ア
鏑木清方と明治・大正・昭和の日本画	東京国立近代美術館	ア
清水九兵衛（七代清水六兵衛）研究—陶芸と彫刻の相関について	千葉市美術館	ア
近現代美術館コレクションの形成とコレクターの役割について	国立新美術館、ルートヴィヒ美術館	ア、オ
甲斐庄（莊）楠音にみる日本画と映画（時代・衣裳考証）	国際日本文化研究センター、神戸大学、東映太秦映画村	ア、ウ
京都国立近代美術館と「現代美術の動向展」	—	ア、ウ
走泥社と前衛陶芸の展開	岡山県立美術館	ア
小林正和と1970年代以降のファイバーアートの展開について	岡山県立美術館、ギャラリー・ギャラリー	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育	京都市図画工作教育研究会、京都市立中学校教育研究会美術部会	イ
障害の有無に関わらず享受できるユニバーサルな美術鑑賞プログラム	国立民族学博物館、京都市立芸術大学、京都府立盲学校、京都大学総合博物館、大阪教育大学	イ、オ
美術館の教育普及活動	—	イ
郷土資料館のたてられた時代の再検証—建築はどのように集められ・展示されてきたか—	科学研究費補助金、3年目	オ

(国立映画アーカイブ)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
1980年代の日本映画	—	ア
外国映画	—	ア
ヨーロッパ諸国の現代映画	駐日欧州連合代表部及びEU加盟国大使館・文化機関	ア
近年逝去した映画人にかかわる映画	—	ア
日本の自主映画	一般社団法人PFF、公益財団法人川喜多記念映画文化財団、公益財団法人ユニジャパン	ア
外国映画を中心とする無声映画	—	ア
映画監督五所平之助の映画	—	ア
香港映画の歴史	—	ア
1990年代の日本映画	—	ア
フランス映画の歴史	シネマテーク・フランセーズ	ア
「SCREEN」誌と戦後日本の外国映画ジャーナリズム	—	ア
映画カメラマン・特撮監督円谷英二の業績	—	ア
現代アメリカの映画ポスター芸術	京都国立近代美術館	ア
鉄道に関する文化・記録映画	東京国際フォーラム	イ
こどもを対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
社会人を対象にした映画鑑賞プログラム	—	イ
映写技術・復元、フィルム映写をテーマにした教育プログラム	—	イ
映画製作専門家のオーラルヒストリー	—	イ
日本の映画検閲による切除対象映画	—	ア
映画フィルムのデジタル化と配信に係る調査	—	ア、ウ、エ
映画資料を整理するとともに、その画像をデジタル化し、活用することを目的とする事業	—	ア、ウ、エ
国際フィルム・アーカイブ連盟 (FIAPF) 会員、その他同種機関、現像所等からの情報に基づく、未発見の日本映画フィルムの所在調査	FIAPF会員、国内外の同種機関、現像所	ア
可燃性フィルムを含むフィルム映画及びデジタル映画の長期保管・保存・変換・登録、アナログ及びデジタル技術を活用した復元、及び映写	FIAPF会員、国内外の同種機関、映画研究教育機関、美術館・博物館、映像機器メーカー、現像所等	ア、ウ、エ
映画の収集のための原版の所在並びに権利帰属等の情報収集と調査	映画製作会社等諸団体	ア

(国立西洋美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
中世末期から20 世紀初頭の西洋美術	—	ア
所蔵版画作品	—	ア
美術館教育	—	イ
松方コレクション	ロダン美術館	ア
ル・コルビュジエによる国立西洋美術館本館の設計	ル・コルビュジエ財団	ア
美術作品や歴史資料中の膠着材の同定法の構築—方法の改善・発展と実践	科学研究費補助金、3年目	ア
松方コレクション来歴研究とデジタル・カタログ・レゾネ試作	科学研究費補助金、2年目	ア、ウ

(国立国際美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
所蔵作品	—	ア
現代美術の動向	—	ア
久保田成子とビデオ・アートについて	新潟県立近代美術館、東京都現代美術館	ア
写真家 鷹野隆大について	—	ア
ヨーゼフ・ボイスとプリンキー・パレルモについて	豊田市美術館、埼玉県立近代美術館	ア
写真家・米田知子について	—	ア
アレックス・カツについて	—	ア
具体美術協会について	大阪中之島美術館	ア
アジア圏タイムベースド・メディアについて	ソウル・メディアシティ	ア、オ
田中信太郎の遺品資料に基づく作家研究基礎調査	東京文化財研究所	ウ
「もの派」について	—	ア
児童生徒を対象とする鑑賞教育の推進	大阪市教育センター、大阪府教育センター	イ
美術館教育	—	イ
初期ビデオ・アートの調査・上映	—	ア、エ
所蔵作品に関する歴史的情報等の公開データの拡充、整備	—	ウ
電気機器や電子機器等を用いた所蔵作品の保存修復と情報管理	—	ア

(国立新美術館)

調査研究内容	連携研究機関等	調査研究目的
日本の現代美術の動向	—	ア
海外の現代美術の動向	—	ア
日本のアニメ、特撮	特定非営利法人アニメ特撮アーカイブ機構 (ATAC)	ア
日本のファッションとデザイン	島根県立石見美術館	ア
佐藤可士和について	—	ア
20世紀初頭のフランス美術・建築	オルセー美術館	ア
イヴ・サンローランについて	国立イヴ・サンローラン美術館	ア
19世紀、20世紀のフランス美術	エルミタージュ美術館	ア
アニメと特撮の展示手法について	—	ア
アンリ・マティスについて	ニース市マティス美術館	ア
メトロポリタン美術館の西洋近代美術コレクション形成史	メトロポリタン美術館	ア
ニューヨーク近代美術館のコレクション形成史	ニューヨーク近代美術館	ア
ルートヴィヒ美術館のコレクション形成に果たしたコレクターの役割	ルートヴィヒ美術館、ケルン	ア
李禹煥について	—	ア
近代以降の美術における光の表象について	テート	ア
古代から近代までの西洋美術における「愛」の表現について	ルーヴル美術館	ア
美術館の教育普及事業（ワークショップ、鑑賞ガイド等）	—	イ
日本の近・現代美術資料	—	ウ
美術資料のアーカイブズ構築における編成記述方法	—	ウ
展覧会情報の収集・提供システム「アートコモンズ」の構築	—	ウ
展覧会情報の国立国会図書館「ジャパンサーチ」との連携	国立国会図書館	ウ